

令和2年度つたえる、感じる、つながる、
森林×SDGsプロジェクト共同事業体

2050年の未来予想図
▶ ワークショップ
進捗報告

2020年12月3日

株式会社 かいはずマネジメント・コンサルティング
一般社団法人 森と未来

0.「2050年の未来予想図」ワークショップ

【目的・概要】

- 未来の社会の中核を担う**中学生・高校生**に、森林と自分たちの暮らしの関わりを「自分ゴト」化し、森林に対する理解・関心を高めてもらう
- 対象人数：1回 20-40人
- 実施状況

実施済

今後実施

	東京都内	福岡県篠栗町	山梨県北杜市	静岡県掛川市	長野県根羽村
開催日	10月29日	11月27日28日	12月1日	12月5日	12月13日
所要時間	2時間	1日	100分	1日	1日
対象者	中学生	中学生	中学生	高校生	中学生
参加人数	20名	19名	40名	12名	30名
森林体験	なし	あり	なし	あり	あり
WS時間	2時間	2時間半	100分	2時間半	未定
成果物	模造紙、画用紙に絵や言葉で表現	模造紙、画用紙などに絵や言葉で表現	模造紙、画用紙などに絵や言葉で表現	森林体験リアルボイス＋模造紙、画用紙に絵や言葉で表現	未定

1. 東京都内（10/29）実施報告

（１）概要

【対象】東京学芸大学附属小金井中学校GREEN TECH Engineer LABの学生20名

【オブザーバー】

- 顧問教員、NPO法人 緑のダム北相模、
（株）教育新聞社、附属小金井中卒業生、文部科学省、林野庁

【プログラム】（2時間）

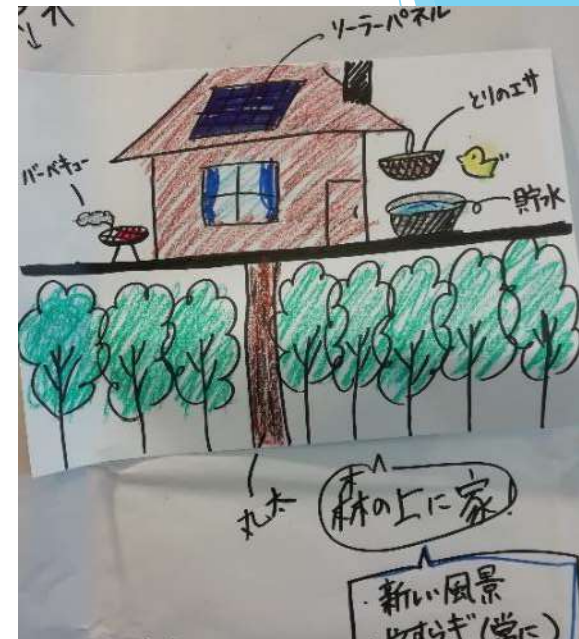
1. 参加者の森林体験の共有
2. クイズの解説
3. 2050年の未来予想図 作成 ①新しい森の使い方のアイデア
②私×森～私と森のカンケイ
③今後のアクション～私ができることはなんだろう
4. フォレストバトン・パス メッセージ撮影

1.東京都内（10/29）実施報告

（２）成果（一部抜粋して紹介）

①未来の森、新しい森の使い方アイデア

- ドローンやデジタル技術を活用して、森林管理を効率化する
- 仕事場として利用できるツリーハウス
- 都会人もハンディキャップを持つ人も森林を感じられるような、バリアフリーの森林空間 など



1.東京都内（10/29）実施報告

（２）成果物（一部抜粋して紹介）

②私と森のカンケイ

森＝

- ・ 自然と人間の仲介者
- ・ 生物の源
- ・ 絶滅を防ぐ盾
- ・ 人間の生活を守る盾
- ・ 水・食料の宝庫

木を伐るのではなく、
観光の目的に活かして
いきたい。



【参加学生から、他の地域の学生へのメッセージ】（一例）
都会に住む私たちと、もっと森が身近にある地域の学生とは、
森に対する価値観、考え方もちがうと思うので、他の地域の
みんなのアイデアに興味がある。

③今後のアクション



子供

森が好き!!
森が楽しい!!
森へ行って機で遊ぶ。
という印象を持たせる。木のおもちゃで遊ぶ。



中高生

木を守りたい
という印象を持たせる。現在の森の現状を学ぶ。
木を切ってみる。



大人

- ① 森を守る活動をする。
- ② 子供・中高生が森を楽しむ企画を考える。



子供



このローテーションを形づくっていく!!



森と木米
Future with Forest



KMC
Kahatsu Management Consulting

1.東京都内（10/29）実施報告

（３）参加学生からの感想

ワークショップの感想・学び（一部抜粋）

森で活動はしていたが、**将来の世代に受け継ぐことについては考えたことがなかった。**

人によって森への思いは違うけれど、**多くの人が森の自然から安らぎを得ていると分かった。**

自分が大人になった時を想像し考えられれば、**子供だからできないことはないと思った。**

今の日本の現状を見て、自然を大切にすること、私たちが未来に関わり、**もっと森について知ってもらい、関わる機会を増やして行くことが大切だと思った。**

自分たちとは違う環境の人たちと意見を交換できる機会は、なかなかできないことだと思った。

森を守っていくには、**一人だけではなく たくさんの人で協力する必要がある。**新しいアイデアが必要であることがわかった。

（４）参加者（学校関係者）からのコメントと対応方針

コメント	対応方針
実際の作業や活動と連動した上で、 実体験に基づいてこうした活動を行う必要がある。	森林体験の時間がとれる場所では、実践する。体験と組み合わせたプログラムの意義を、本事業より教育現場へ提案する。
実際には 現地に行くハードルが高く 、室内でそれらしい話をするに終始することが多いので、その ハードルを越える施策 をお願いしたい。	現地に行くことのハードルを具体化し、解消するための手段を考察する。

2.福岡県篠栗町（11/27・28）実施報告

（1）概要

1. **【事前講義】** ～過去に学ぶ～ **11月27日**
「篠栗の森の成り立ちについて」 教育委員会 平ノ内主査
「森林×SDGについて」 森林×SDGsプロジェクト

- 聴講者 中学1年生110名＋傍聴者



2. **【森林体験】** ～今を感じる～ **11月28日 午前**
森林セラピーロードを、森の案内人のガイドのもと歩く



3. **【ワークショップ】** ～未来を描く～ **11月28日 午後**
ワーク①森歩きで感じた、森の印象・感想
ワーク②未来の森を想像する
ワーク③未来予想図の実現のためのアクション
ワーク④フォレストボタン・メッセージ～他の地域の学生に伝えたいこと

参加人数：中学1年生19名、学校関係者6名、父兄4名、地域関係者11名



森と未来
Future with Forest



KMC
Kahatsu Management Consulting

2.福岡県篠栗町（11/27・28）実施報告

（2）森林体験の様子

修験道と関連の深い歴史
ある森を、森林セラピーガイ
ドの案内のもと歩く



大杉の前で、森からの
メッセージを書き留める

森に寝転び、
空を眺める



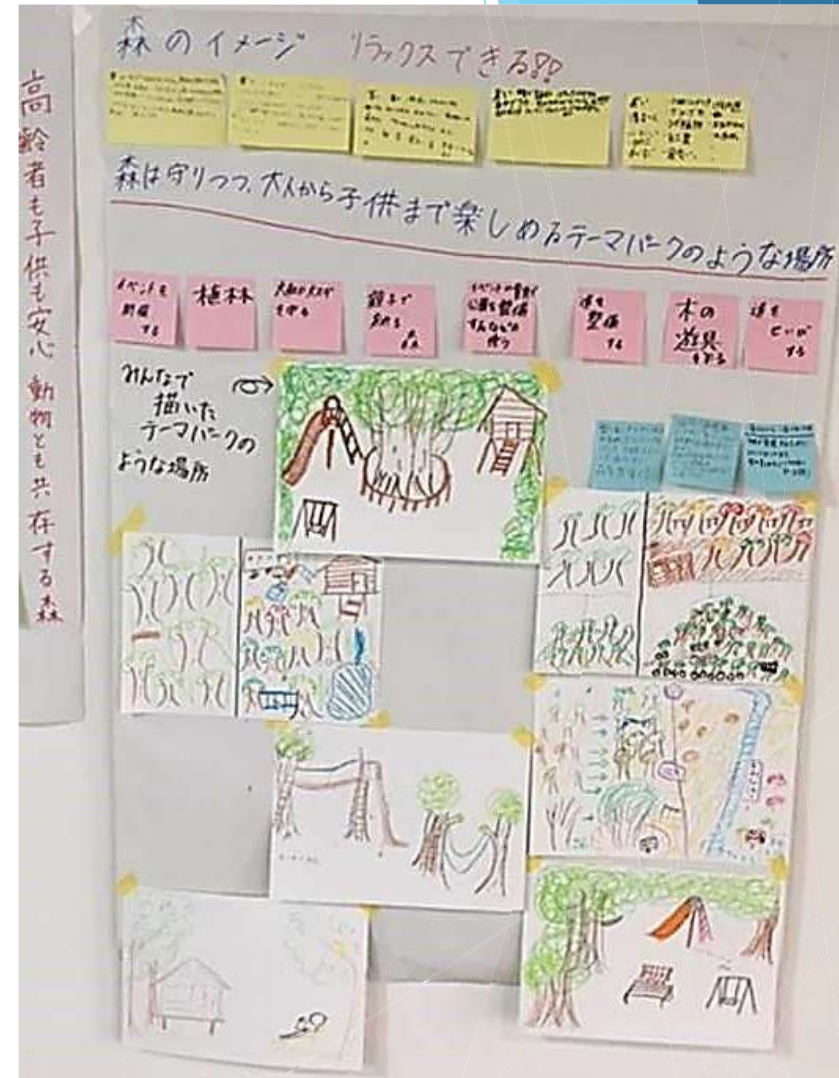
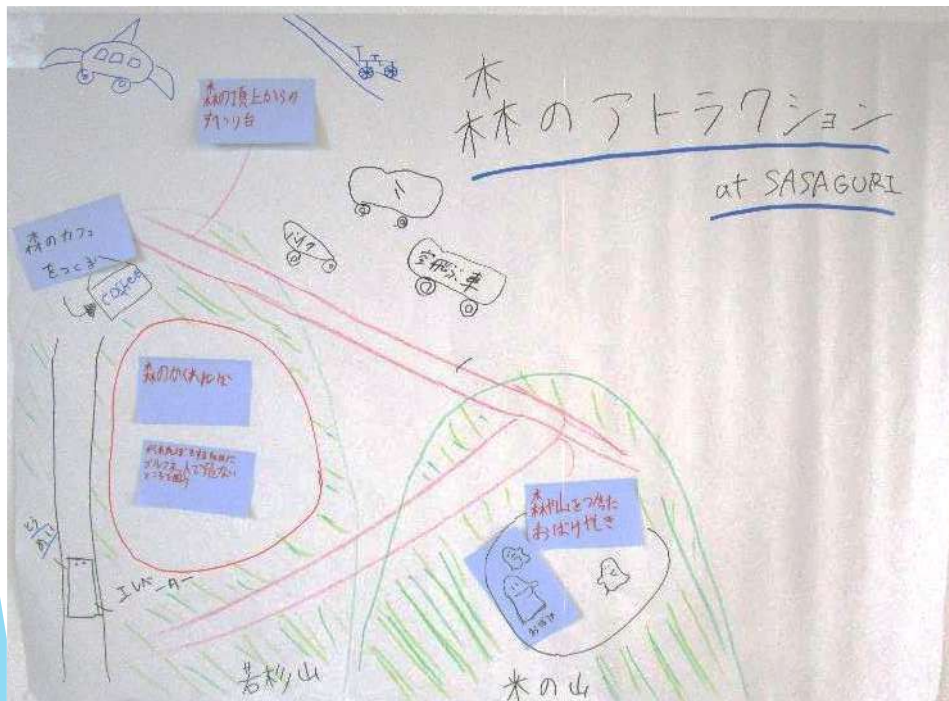
木に抱きつい
てみる

2.福岡県篠栗町（11/27・28）実施報告

(3) 成果（一部抜粋して紹介）

アイデア発表テーマ

- 全年代が楽しめるテーマパーク
- 森林案内ロボット
- **QRコードで場所の解説、VR**



3.山梨県北杜市(12/1)実施報告

(1) 概要

対象人数：1年生 40人



発表テーマ

- 森を守る 5 F：Forest、Fun, Favorite, Free, Fantastic
- こどもの夢をかなえよう
- Happy Forest
- 森は友達
- 私たちの夢の木
- 森林の活用



4.これまでの開催の気づき・所感

	東京都内	福岡県篠栗町	山梨県北杜市
森林体験	なし 課外活動で森林整備や間伐材による木工を実践。	あり 地域の山で森林セラピーを体験。	なし 周囲を山に囲まれているが、山に入ったり、意識する機会は少ない。
成果物の所感	➤ 森林管理の必要性や木材価格の問題に関する知識があり、経済的に持続的な仕組みを作る意図がうかがえた。 ➤ 森林整備の意義を、より長期的視点で見直していた模様。	➤ 直近で体感した森の心地よさ、五感が素直に表現された。 ➤ 足場の悪さなど現実的な課題にも気づき、解決に向けたアイデアも示された。	➤ 各自の体験が異なる中、森＝暗くて寂しい場所、何もすることがない場所という印象もあったが、未来の森は理想に溢れた夢のある像が描かれた。 ➤ 今後、調べ学習で、課題も含め考えるきっかけとなることに期待。

- 森林体験と合わせてワークショップを実施することが効果的。
- 地域の方の協力が不可欠。
- 子どもの主体性を活かすファシリテーションが重要。
- 他地域の学生とのメッセージ交換は、子どもたちにとってよい刺激になる。

5. 今後の予定

(1) ワークショップ

①静岡県掛川市（12/5）

掛川西高校 アウトドア部 12名

- ・ 森林組合職員による森林の仕事、展望説明
- ・ 森林の楽しみ方（薪割、E-MTB、トーチ）

②長野県根羽村（12/13）

根羽学園 中学校

学生主導による企画運営

※コロナの感染拡大を受け、東京からの訪問は控え、オンライン中継予定。

(2) 成果の活用

- 成果物やアンケートの集計結果をもとに、学生の気づきを整理する。
- 総合的学習の時間での実施を想定し、教員や地域関係者が、森林体験とワークショップを実施する際の利点や課題を分析する。
- ワークショップの企画・運営上のノウハウをマニュアルに整理する。
- 次年度以降も継続して開催するための体制を検討する。

(3) 成果の発信

- ワークショップ成果を、農林水産省のウェブサイトおよび公式You Tubeチャンネルで発信する。その他、教育雑誌への掲載を検討する。